

特集

消えた信号機 石巻中心部、水没で92本故障



消えたままの信号機。被災地の渋滞を招く一因になっている＝20日、石巻市立町

東日本大震災の津波で水没した宮城県石巻市の中心市街地で信号機の復旧が進まず、交通の混乱状態が続いている。緊急車両が多く、がれきなどの障害物も残り、渋滞に拍車が掛かっている。

「道路が混んでいて病院に行くのを途中で諦めた。信号が復旧してくれれば助かる」。市中心部で食品店を営む50代の女性は言う。

市内では296本の信号機のうち、21日現在、92本が故障している。壊滅的な被害を受けた沿岸部だけでなく、ライフラインが復旧した市街地でも信号が消えている所が目立つ。

市街地の多くが水没して信号機の制御器が機能しなくなったのが原因で、宮城県警交通規制課は「揺れや停電にはある程度対応できても、水没する事態は想定していなかった」と説明する。

県警は優先順位を決めて復旧に取り組んでいるが、「修理に必要な人員や資材の確保が追い付かず、予算上の制約もある」と作業の遅れを認め、理解を求める。

交通量の多い交差点には警察官が立って手信号で誘導しているが、車の数多くてさばき切れていない。道路の混雑が予想されるゴールデンウィークが近づき、石巻市防災対策課は「1日も早い復旧を願う」と話している。

(成田浩二)

2011年04月22日 金曜日